



「指導に生きる あかぎアドベンチャープログラム(AAP)セミナー」

実施報告

6月12日(土)から1泊2日の日程で、「指導に生きるあかぎアドベンチャープログラム(AAP)セミナー」を開催しました。参加者は、群馬県をはじめ福島県や沖縄県など広範囲から28名が集まりました。男女別では、男性19名、女性9名でした。年代別では、20代が4名、30代が12名、40代が11名、50代が1名でした。分野別では、教職関係者33%、青少年団体関係者44%、学生7%、その他16%でした。参加者は、30代、40代の年齢層が多く、新しい教育手法を模索しているようでした。参加者の学ぶ意欲は高く、自分のフィールドに持ち帰り、活用したいという姿勢を強く感じました。

第1日目は、セミナー開始時の参加者の気持ちを景色や動物のしぐさが描かれたカードで表現することから始まりました。次に名前を覚えるための「ネームラインナップ」や趣味が同じ人を探す「ハブユーエバー」など、参加者の心をほぐすためのアイスブレイクを行いました。その後、2つのグループに分かれ、あかぎアドベンチャープログラム専用設置された固定の器具(ロープスコース)を使い、講師が設定した課題を話し合ったり試行錯誤したりしながら、グループ全員の力を合わせて克服していく活動を体験しました。その際、参加者が指導者として活動を進める上での注意点や要点も学びました。

夜は、手のひらサイズに切った紙やスポンジでできたボールなどの小道具を使い、室内でもできるあかぎアドベンチャープログラムを体験しました。日常生活にある素材を活かす活動により、室内での指導の幅を広げるものとなりました。

夜の実習後、参加者同士での自主情報交換会をひらき、各分野の課題や悩みを共有する場面が見られ参加者間でのネットワークづくりを行っていました。

第2日目も引き続きロープスコースを利用した活動を行い、全体の活動を通してのふりかえりをして、2日間の学びを確認しました。

参加者からは「様々な体験を通して、あかぎアドベンチャープログラムに関する知識・理解がさらに深まった」「チームが一体となってあきらめずに最後までやり遂げられたことがとても良かった」「今回体験したことを、学校での指導に活かしていきたい」などの次につながる感想が聞こえてきました。参加者の指導技術の向上と実践意欲を大いに高める企画事業となりました。

【第1日目 午前】



「今の気持ちカード」

カードを使って、気持ちを表現します。



「ハブユーエバー」

趣味が同じ人を見つけることで仲間意識が芽生えます。



「フェンシング」

心と体をほぐす、ウォーミングアップ。
自然とスキンシップができるようになります。



「自己紹介カード」

自分の思いを似顔絵とともに表現することで、共有がはかれます。

【第1日目 午後】



エレメント1「電柱でござる」
グループ全員が直線的な丸太にのり、
落ちないように並べ替えをするアクテ
ィビティ



エレメント2「巨大シーソー」
グループ全員がシーソーに乗り平行に保
つアクティビティ。



エレメント3「むかでウォーク」
2本の角材に足をのせ、ロープを
手に持ちコースを歩くアクティビティ。



エレメント4「手つなぎトラバース」
1本のワイヤーロープをグループ全員が渡
っていくアクティビティ。

【第1日目 夜】



課題解決「ペーパータグ」

手の甲に手のひらサイズに折った紙を相手の手の甲にキャッチさせるアクティビティー。



「対戦型インパルス」

アイスブレイクの1つ。2グループに分かれ、隣の人に手をギュッとにぎるリレーをし、最後の人は、1つのフラッグを取り合うアクティビティー。

【第2日目 午前】



信頼関係を作る「トラストジャンプ」

グループ全員で、飛び込んできた仲間を全身で受け止めるアクティビティー。



エレメント5「ホールインワン」

約1m浮いたタイヤを体に触れず、通過していくアクティビティー。



エレメント6「浮島わたり」

1本のロープにつかまりグループ全員が浮島に渡っていくアクティビティー。

【第2日目 午後】



「ふりかえり」

2日間の体験を全員で話し合い、最後に再び、今の気持ちカードを使って、自己の気づきを確認しました。

